

<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林の林況は、良好である。 ・路網整備された路線は、良好に維持・管理されている。
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備事業の実施により、山地災害防止や水源涵養など機能類型の区分に応じた森林が形成され、水源の涵養、山地災害の防止、炭素固定などの公益的機能が発揮されている。 ・路網整備事業の実施により、作業コストの縮減等が図られるようになり木材生産機能が形成されている。 ・周囲の森林と調和した適切な森林施業は自然景観を保持し、森林資源の充実を図っている。
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>胆振東部地域の経済情勢は、大きく変動している部分は見られないが、冬温暖、夏冷涼な気候を生かして水稲や野菜等の畑作物、酪農・畜産やメロンが栽培されているなど多様な農業が展開されている。このほか、軽種馬の生産、沿岸漁業、道内有数の工業都市並びに港湾都市となる苫小牧市を中心に産業の活性化が見られ地域経済の基盤となっている。</p> <p>林業では、高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が促進されており、森林施業に資する林道、林業專業道及森林作業道の有機的な連結により効果的な森林施業が展開されており、間伐等の推進が期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるため、事業計画に基づいて着実に事業を実施することが必要である。</p> <p>なお、今般の事業実施に関する事業対象区域の地元意見は以下のとおりとなっている。</p> <p>(北海道)</p> <p>森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する公益的機能の維持増進が図られたと認識している。今後も国有林と民有林で一層連携して森林整備を推進していただきたい。</p> <p><small>しらおい</small> (白老町)</p> <p>本町における国有林については、白老町の行政面積の50%以上を占めており、国土の保全、水源の涵養など森林の持つ多面的機能の重要な担い手として、その役割は地域住民から大きく期待されているところである。</p> <p>近年、全国各地で集中豪雨による山地災害が多発していますが、本町でも平成26年9月の大雨により民有林を含め林地内の町道の崩壊、河川への土砂の流出と氾濫などの被害が発生した。</p> <p>本町の上流域を占める国有林につきまして、森林の持つ多面的機能の維持増進のためにも、適切な森林管理の推進を要望する。</p> <p><small>とまこまい</small> (苫小牧市)</p> <p>樽前山麓の国有林は、苫小牧市水道事業の取水河川の源となっている。</p> <p>しかし、過去における広範囲の風倒木被害や、近年のゲリラ豪雨等の影響により、河川周囲の崩壊箇所起因した濁度上昇が頻繁に発生している。</p> <p>また、その回復に長い時間を要することから水処理に大きな支障をきたしている。</p> <p>このため、市民生活を支える重要なライフラインである水道水の安定供給という観点からも水源涵養機能や水質の安定が図られるよう、森林の整備を</p>

	<p>要望する。</p> <p>(むかわ町)</p> <p>本町の森林面積は行政区域の約79%を占めており、そのうち国有林が約36%を占めますが、水土保全など森林の公益的機能への役割が益々重要となる。</p> <p>近年は、全国各地で集中豪雨により山地災害が多発しておりますが、本町においても8月に立て続けに上陸した台風により山地崩壊等による林道への土砂流入や河川への土砂流出及び氾濫など被害が発生したところである。</p> <p>特に、今回の台風では十勝及びオホーツク方面を中心に山地災害等の甚大な被害を受けたことなどから、山地災害防止など森林の公益的機能の維持確保など適切な森林管理と治山事業の推進が重要となりますので、本町の上流を占める国有林の適切な森林整備を要望する。</p>
<p>森林管理局事業評価 技術検討会の意見</p>	<p>本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認められる。</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、また、沿岸部の漁業等に対する水質の保全に配慮した施業実施が求められている地域であり、更に、地球温暖化防止対策や国土保全の観点からも事業の必要性が認められる。 ・ 効率性 費用対効果分析の結果から、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性 本地域は、苫小牧市を中心とした比較的平坦な山地からなる上流域に位置しており、下流域の水源として、基幹産業である農業や沿岸資源に依存した水産業、工業などの振興に資するための重要な役割を担っている。 <p>このため、上流域の森林施業の在り方により受ける影響は大きく、計画的な森林整備により、森林の有する機能の発揮が十分図られたことから、事業の有効性が認められる。</p>

別紙様式7

整理番号1

便 益 集 計 表

事業名: 森林環境保全整備事業

事業実施主体: 胆振東部森林管理署

事業実施地区名: 胆振東部森林計画区(いぶりとうぶ)

(都道府県名: 北海道)

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額 (千円)	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	21,178,785	
	流域貯水便益	5,122,191	
	水質浄化便益	11,179,541	
山地保全便益	土砂流出防止便益	21,771,940	
環境保全便益	炭素固定便益	5,609,736	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	63,203	
	木材利用増進便益	152,289	
	木材生産確保・増進便益	6,271,082	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	4,835	
総 便 益 (B)		71,353,602	
総 費 用 (C)		8,436,755	
費用便益比	B ÷ C =		8.46

28年度 完了後の評価 概要図

胆振東部森林計画区的位置図



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
森林管理署	